

# 自由南アフリカの声

## *Voice of Free South Africa*

2003年6月  
No.32

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

### 2003年6月の報告と予定

- 3月 西ケープ州へ本3,191冊を送付
- 3月 インターナショナルスクールへ絵本等の寄付依頼
- 4月 南ア連絡員、MEIとトワイライトを訪問
- 5月 新都心フリーマーケットに出店
- 5月 MEI移動図書館へ支援金を送金
- 6月 MEIへ本を57箱送付
- 6月 南ア連絡員、ELETとKZN省移動図書館を訪問

### 目次

現地からの報告とお礼の言葉 .....	2
フリーマーケットに参加して.....	5
会員からの便り .....	6
活動報告／2002年度会計報告 .....	7
寄付・賛助会費をくださった方々 .....	8



フリーマーケットに初挑戦！ さいたま新都心で

TAAAが支援している南ア現地の団体から、たくさんの報告やお礼の言葉が届いています。今回はその中のいくつかを紹介したいと思います。

## MEI 移動図書館車プロジェクト年次報告 2002



### 1 事業運営

移動図書館車プロジェクトは拡大を続け、今年で6年を迎えた。現在、デベトン並びにエトワトワ地域の小学校33校のうち28校にサービスを提供し、これらの学校では唯一の図書館サービスとして貢献している。登録者は教師900人、生徒25000人。図書館車の到着はどの学校でも熱烈に歓迎され、教師も図書館の有効な活用について理解を深めている。2003年には、デベトンとエトワトワの全ての小学校にサービスを提供するという目標を達成する予定である。

今年は、車の故障やコンピューター、ソフトの問題など、いくつかの困難にも見舞われたが、年末にコンピューターを交換し、車も修理をすることで乗り越えた。

蔵書数は12900冊前後。残念ながら176冊を紛失したが、これは一定水準を十分満たしていると言える。最近では、生徒1人に本が1冊行き渡らない状況にあり、蔵書の増加が望まれる。

### 2 財政

事業運営は、主に3つの寄付金により支えられている。

- ・セント・アンドリュー学校支援基金 R70620 (フルタイムの司書の給与とその活動費) [約104万円]
- ・アジア・アフリカと共に歩む会 R37542.67
- ・その他寄付金 R24856.05 [約55万円]

ハウテン州教育省に加え、ペノ二地区からも積極的な支

援を得て、図書館アシスタントのジョージ・ラモディベ氏が配置されている。学校との連絡調整を担当する彼の活躍で、図書館活動がより円滑に行なわれるようになった。

今年の大きな支出は、新しいコンピューターの購入(R15499.95)である。5年近く使用してきたノート型パソコンのソフトウェアが型が古いため修理不可能となり、新しいバージョンにアップグレードするには、コンピューター本体の買い替えが必要になったためである。

年末の決算残高はR67469で、次の6ヶ月間の活動費を賄うには十分な額である。

### 3 今後の予定

今後の活動の焦点は以下2点である。

第一に、より多くの本が必要であること。上述したように、最近では、子ども1人に本1冊が行き渡らなくなっている。しかし、学期中に全ての本が借りられるわけではない。これは、蔵書の大半は寄付された本で、新しく購入された本はわずか10%に過ぎないことと関係がある。結果として、蔵書は理想的なものとはなり得ず、特にアフリカの言語で書かれた本や、教師から要望がある特定の題材を扱うノンフィクションを購入する必要性が発生する。これらの本の購入には、新たな寄付金集めが必要になる。

第二に、大半の中学校には図書館サービスがないこと。移動図書館が学校を一巡するのに3週間かかり、各学期で

本の配布に1回と本の回収に1回しか回れない。中学校への移動図書館車のニーズを満たすには、もう1台別の移動図書館車が必要になるが、これには多くのコストと、新しいスタッフ、車両はもちろん、コンピューターや駐車場といった設備も必要になり、年間R120000ほどの運営資金を賄うスポンサーを探さなければならない。



エイズへの警告が壁に書かれた校舎

#### 4 謝辞

このプロジェクトは、多くのスポンサーやスタッフ、ボランティアの協力なしには成し遂げられない。特に以下のスタッフには、その熱心な仕事振りに感謝する。

- ・アリソン・ファン・レンスバーク 司書
- ・ジョージ・ラミティベ 図書館アシスタント
- ・アブソレム・ンカビンデ 運転手

加えて、多くのボランティアが価値ある支援を提供してくれたが、特にジオフ・スマートとヘザー・ステッペには、この場をかりてお礼を言いたい。

※ 校名一覧は割愛させていただきました（今年訪問した学校28校、来年新しく訪問を始める学校5校）。

千葉愁子訳

## CYDO (Child and Youth Development Organisation) からの手紙

南アのプレトリアに事務局を持つ BLL の藤田真紀さんを通じて送った本に対する、利用団体からのお礼の手紙です。この本は学校法人河合塾が全国に呼びかけて収集し、送付の作業まで引き受けてくれた本です。

### ■学校法人河合塾からの本へのお礼状

私たちのセンターへ本の寄付をいただき有難うございました。Cydo センターでは子供たちが本を大変よく利用しています。

皆様が支援を続けてくださるのは私たちの非常な喜びです。皆様との良い関係と友情が続いていく事を望んでおります。

私たちは南アの BLL が皆様を紹介してくれたことに感謝しています。

あなた方がコミュニティの発展に寄与されますことを祈っています。



マモレツァネ・モタ（プロジェクトコーディネーター）

野田千香子訳

# ソアール移動図書館プロジェクト

私たちが大切にしてきた思いは、常にソアールの貧しい小さなコミュニティを世話する人々と共にあります。夢を実現してくれた、ジューン・パージェス、薫、野田千香子および TAAA へ。

大きな喜びとともに、私たちに移動図書館を与えてくれた日本の政府に感謝したいと思います。これはソアールが存立して 184 年間で実現した一つの夢です。2002 年 4 月から今までに、この移動図書館は一日単位で 6 つの教育機関へ行きました。初め、移動図書館車は、J.ヨハン氏[ソアール R.P. ボタ小学校校長]と、マッケンナ氏[ソアール EK 小学校の教師]がボランティアで運転しました。その後、ブレットライン・アフリカ[貧しい人の列・アフリカ]によって、管理費および給料としての資金が提供されることになりました。このお金は運転手とライブラリアンのために使われました。ジューン・パージェスが、この資金調達を可能にしてくれました。

本は全ての利用者によって責任を持って借りられ、返却されます。これらの本は、図書館員と運転手が注意深く管理します。移動図書館車が来る日、生徒たちは借りている本を新しいものに交換しようと、とてもわくわくしています。移動図書館車が到着すると、彼らは歌うかあるいは自分で調子をとって、誇りと感謝を身振りで表します。彼らは自分の好みの本を選び、またその本を読むために彼らの教室へ喜々として戻っていきます。そして移動図書館が再び来るまでに読みます。生徒たち、教師およびソアールのコミュニティがこの[移動図書館の]遠征を享受しています。

移動図書館車に載せられている本の量はかろうじて私たちのニーズを満たしていますが、持っているもので間に合わせています。私たちのために日本から送ってくださった本をありがとうございます。非常に感謝しています。

私たちのプロジェクトでは、給油は ENGEN[カソリンスタンド]が、給料と管理費・移動図書館車の保守点検する教育施設についてはブレットライン・アフリカが資金を提供します。

私たちは、移動図書館車についての情報がすべて日本語であること、予備の部品がかなり手に入れ難いことに気づきました。しかし、現地で移動図書館車を修理することができ、それを再び動かすことができる人々がいました。移動図書館車は、パンクおよびワイパーのスイッチのこと以外では、移動図書館を行わなければならないルート上において完全な状態にあり、長距離をよく移動します。私たちはオーツホーンの ENGEN ガレージで毎週満タンにします。

私たちは 2003 年にサービス・ルートを拡張したいと思います。特に、農場コミュニティおよび郊外のそれらでサービスし、本に接することの出来ない人々に読み書きの能力

向上のための資料を持っていきたいです。そして、読み書き能力向上プロジェクトの終盤ですべての人が読み書きできるように促したいです。貧しい貧しいコミュニティの生活に変化を生じさせたいのです。さらに、HIV/AIDS の知識普及プログラムも同様に実施したいです。また、移動図書館車にこの疾病の資料も備えたいです。

この移動図書館は委員会によって運営されています。この委員会は、私たちがサービスする個々の教育機関の代表から成ります。ここで、重要な決定は議論され承認されます。四半期毎の会議はプロジェクトをすべての委員に通知しておくために開催されます。西ケープ教育省もまた、このプロジェクトについて活発な役割を果たします。

2003 年から、個々の教育機関はこのサービスを利用する学習者当たり 1 ランドを払います。このお金はあらゆる管理コストのために図書館資金の中で維持されるでしょう。すべての教育機関はそれについての承認を与えました。

3 月の学校の休暇中に、移動図書館車はクライン・カルー・ナショナル・クンスツフィーで、移動図書館車の価値や、学校で読み書きの能力レベルを改善するために移動図書館ができることを一般の人々に知ってもらう役割を果たします。

昨年 4 月から 12 月までで、私たちは 5689 冊の本を貸出しました。私たちは、全くの献身を持ってジューン・パージェスによって始められたこのプロジェクトを非常に誇りにしています。ジューン・パージェスは、プロジェクトが整っているかどうか確かめるために毎回 800km 前後移動します。ジューンに大変感謝します。あなたはそれを私たちのために可能にしました。

薫、千香子、南アフリカにいる日本の代表に感謝します。この読み書きの能力向上の活動に対する、私たちの心からの誇りおよび感謝の気持ちを伝えてください。

私たちのために運転手および図書館員への支払いを負担するブレットライン・アフリカに感謝します。

ライセンスを毎年払う西ケープ教育省に感謝します。

私たちの読み書きの能力ニーズを満たすことについて、日本の政府への感謝の言葉を送ります。

議長 J. HERANDIEN

訳：山縣睦子

TAAA活動資金のために初挑戦!

## フリーマーケットに参加して

フリマ実行委員 西村裕子

5月11日(日) ついに、この日が来てしまった。

良く眠れぬまま、朝を迎えた。

「あー、どうなるんだろう・・・」

3月に急遽、結成された「フリマ実行委員」は皆、こんな気持ちだったに違いない・・・。

7時30分、浅見実行委員長が荷台いっぱいに積みこまれた「商品」と共に私の自宅まで迎えに来てくださった。その荷台の中には、後に「アサミちゃんのベッド」として、誰かさんのお家にお嫁入りした「浅見家の折りたたみベッド」もドカッと積まれていた。

いざ、会場となるさいたまスーパーアリーナへ!

すでに、実行委員の安部さんがご主人と到着していて、TAAAのブースまで案内してくれた。思ったよりずっと狭い。品物が多すぎて、途方にふてしまった。

回りをみると、皆、手際良く並べている。すべての物が高級そうに見えた。

またしても、不安。

そこに、下谷さんが、売り物用の折りたたみイス2脚他、色々な物を持って登場して下さい。メンバーが1人増えただけで、準備がはかどる。

まだ、9時にもならないのに、早くもお客様が集まり始めた。いきなり、値切られた! 「キズがあるわ」「シミがあるわ」・・・。恐怖で顔が引きつる。

300円の物も、どんどん100円になっていく。追い討ちをかけるように会場内には「置き引きに注意してください」という拡声器の声。つり銭や商品を視野に入れながら、少々パニック状態になっている所に野田代表と北爪さんが来てくださった! あー助かった!!

山下さんがご主人と来て下さる頃には、大盛況だった。ちょっぴり品物が売れて出来たスペースには、下谷さんのイス2脚が売り物としてではなく、備品としてスタッフの疲労回復に役立ち始めていた。

午後になり、荒井さん・千葉さんもお忙しい中、お手伝いに来て下さり、いよいよラストスパートをかけることになった。

確か、その頃「アサミちゃんのベッド」という本日最大のヒットが誕生した。

人の良さそうなご夫婦が「あのベッド、ここの誰かが寝ていたの?」と尋ねてきたのだ。

すでに100円にまで値下げされた浅見家の折りたたみベッドだった。ちょうど、浅見実行委員長は打ち合わせのため、席をはずしていたので、「今、ここにはいないけれど・・・アサミさんという人が・・・」「あら、アサミちゃんのベッドなの?可愛い女の子が使っていたのね」一同、絶句してしまったが、2秒後には「ハイ、そうです!」もう、後戻りできない。アサミちゃんという女の子が愛用していたベッドとしてお見せしてしまった。

そのご夫婦は、50円でアサミちゃんのベッドを落札した。キャスターをコロコロと転がしながら、ご主人が運んでいく後姿を見て、「浅見さん、あのベッドに何か言いたい事なかったかな?」とちょっと感傷的な気分になったりもした。

長い長い1日が終わり、一番気になる売上は・・・

32,775円という、予想をはるかに上回る高額でした。準備段階から、分からない事ばかりでしたが、大成功に終わったと思っています。この日、お力を貸して下さった皆様、誰か1人がいらっしやなくてもこのような良い結果は生まれなかったことでしょう。最後になりましたが、朝から1日お手伝いをして下さった、大和証券社会貢献部の後藤信介さんにも、心よりお礼を申し上げます。午後は雨と言われていたお天気も、悪くなることなく1日終わってくれたこと、全てに感謝の気持ちです。皆さん、本当にありがとうございました。

今回、残念ながら売れ残ってしまったソウさんの置物も次回のフリマでは誰かのお家のソウさんになるといいな・・・と、祈りつつ。



笑顔で買物客に接する西村さん(撮影:浅見克則さん)

・・・みなさん、お疲れさまでした。

## 会員からの便り

◆地元埼玉でNGOのボランティア団体があることを、越谷の郵便局の本局に行った時に初めて、NGOの紹介をしている本で知りました。早速、いつ活動しているのか 代表の野田さんにメールにて問い合わせました。ご丁寧にも、お手紙と行きかたの詳細しく地図を書いていただき、その真心からの人間性に感動しました。この会は、信頼できると思い、先月初めて参加したのでした。思っていた以上に、参加しているみなさんの生き生きしている様子にび

っくりしました。今月も参加させていただき思った事は、何にか昔からの同級生にあったような、仲間に合ったような感じをおぼえました。食事をしながらの 南アフリカの教育事情、国の様子などについての質問など、どんどん出し合いながら本音で語り合える場が、この会のすばらしい点ではないでしょうか。これからもどんどん意見を出していきたいし、協力できる事はできる限りやっていきたい。私のホームページに TAAA のリンクを貼らせてもらいました。

ご参考までに。

<http://www.e-juku.ne.jp/>

深野正己（越谷市）



## イラク戦争についての会員からの便り

◆古代ローマ人は廃墟を作ったとき、それを平和と名づける、といわれた。アメリカは、ローマ帝国の伝統を受け継いでいるように思われる。

アメリカによる平和（パックス・アメリカーナ）であっても、現実には秩序を維持し、平和を保障するのであれば、それは意味あるものといえなくもない。しかし、そこで意図的に隠され、切り捨てられ、忘れ去られていくものがある。それは貧しいもの、弱いものの命であり、生活である。日本国家が勝者アメリカに追随するのみであるならば、NGOはますます人間としての立場にたち、国際政治の隙間をうめていくべきである。

戦争賛成の立場はとらない。

下谷房道

◆私が南アに興味を持ち続ける理由として、この国が、「アパルトヘイト」という長年の「テロ」に対し、最終的には、「報復」でも「戦争」でもなく、「和解」を武器に戦い、国民の皆が勝利したところに、人類史の大きな前進を感じることがあげられます。もちろん、今でも問題は山積しており、きれい事では片づいていませんが、少なくとも大きな一歩ではあったとおもいます。

私には、今の米国主導の攻撃的な国際政治、そしてそれが生み出す「報復」や「戦争」は、人類史の流れの中で大きく後進していると思えます。

久我祐子

## 最新情報はホームページで！

ホームページアドレス <http://www.h4.dion.ne.jp/~taaa/index.htm>

ホームページに平林薫さんからの「南アニュース」IZINDABA が入りました。

今後連続して南アの情報を届けて下さるそうですので、お楽しみに。

◆主な活動 (2003年1月31日～5月15日)

- 1/31 会計事務 安部弥生  
 絵本寄付依頼状作成 久我祐子  
 2/2～15 会報31号編集 山田玲子 野田千香子  
 2/2 ホームページ更新 大久保忠人  
 2/6 経団連 社会本部へ 野田  
 2/9 作業と会議 吉田保英 西秀樹 鎌谷龍一 永山智高  
 深野正己 大塚久子 安部 西村裕子 下谷房道 浅見克則  
 千葉愁子 野田 村泉巨竹  
 2/22 会報31号印刷 泉国際交流協会にて 西村 北爪健一  
 野田  
 2/24 会報発送 井出和栄 井出千亜紀  
 3/9 作業と会議 大久保 野田 西村 北爪 荒井理恵  
 日名徹一 浅見 桜井茂子 深野 倉田 山田 吉田 釜谷  
 下谷  
 3/19 西ケープ州Zoarへ本3191冊を送付  
 3/22 福原秀夫氏と賛助会員について相談 野田  
 4/1～10 2002年度会計集計 安部  
 連絡員の平林薫がELETプロジェクトに関して会議  
 4/14 南ア デバトンのMEI と学校を訪問 平林

- 4/17 車の書類作成 北爪  
 南ア ストリートチルドレンの施設トワイライトを訪問 平林  
 4/20 作業と会議 西村 有江恵子 北爪 安部 浅見  
 下谷 千葉 野田  
 4/23 会計書類の確認 安部 野田  
 南部アフリカ危機報告会(ユニセフ菊川穰氏) 浅見 千葉  
 村泉 野田  
 4/25 経団連の「1%クラブ」の対象団体になる  
 4/27 ユニセフ・レソト事務所職員菊川穰氏夫妻 野田名へ  
 野田 浅見  
 4/28 ELETプロジェクトの件で会議 千葉 野田 安部  
 5/8 南ア連絡員のニュースレター「ZINDABA」1号ホーム  
 ページへ入る 平林  
 5/11 さいたま新都心にてフリーマーケットに出店 浅見  
 西村 安部 野田  
 4/29 ホームページ最新情報入力 大久保  
 5/11 新都心フリーマーケット参加 浅見 西村 安部 野田  
 北爪 山下八千穂 後藤信介 下谷 荒井 千葉  
 5/11 会議「学校におけるHIV教育プロジェクト」(ELET)に  
 ついて 千葉 安部 野田 浅見 北爪 荒井 日名 後藤

長年、教員に対し、生徒が主体的に関わる授業方法を指導してきたダーバンのELETが、「学校におけるHIV/AIDS教育プロジェクト」を行なおうとしています。TAAAはこれを積極的に協働して実現させたいと、現在その可能性をさぐり、協議を重ねています。

2002年度  
**「アジア・アフリカと共に歩む会」 会計報告**  
 (2002年4月～2003年3月)

収入		支出	
前年度繰越金	3,116,284	本輸送費	388,024
寄付金	1,822,977	図書館車諸経費	241,370
物品販売	83,720	通信費	185,094
講演料	20,000	交通費	2,480
10周年パーティー会費	70,000	印刷費	43,565
助成金	0	事務費	89,168
会費(賛助会費)	190,000	現地連絡員活動費	129,500
預金利子	191	現地NGO支援金支出	1,100,000
		内訳 ※ ELET支援	(550,000)
		※ MEI支援	(550,000)
		助成金関連支出	0
		その他費用	229,444
		内訳 ※ 10周年記念誌費用	(160,750)
		※ 10周年パーティー費用	(68,694)
		次年度繰越金	2,894,527
	<b>5,303,172</b>		<b>5,303,172</b>

上記の通り報告いたします

2003年3月31日

会計 安部弥生  
 会計監査 小宮山明子